

第3節 事業ごとの医療連携体制の現状・課題と対策

1 救急医療

令和3年中の本県における救急隊の出動件数は44,880件、搬送人員は41,353人で、直近10年の傾向としては、出動件数、搬送人員とも増加傾向となっています。また、搬送人員の事故種別内訳は、急病が60.0%、交通事故が7.7%で、急病が占める割合が増加しており、今後の高齢化の進展に伴い、救急医療に対するさらなる需要増加が見込まれます。

救急医療資源に限りがある中で、この需要に対応しつつ、より質の高い救急医療を提供し、県民が安心できる救急医療体制を整備する必要があります。

【現状】

(1) 救急医療をとりまく状況

① 高齢者救急の増加

救急搬送された高齢者（満65歳以上）についてみると、平成22年には約22,000人で全体の54.6%だったものが、令和3年には約27,000人で全体の66.2%を占めており、今後も高齢化の進展に伴い高齢者救急の件数増加が見込まれています。

② 疾病構造の変化

昭和62年時点では救急搬送人員の43.5%であった急病について、令和3年には60.0%を占めるに至りました。今後も急病の対応が増加し、特に、高齢化の進展に伴い、脳梗塞、肺炎、心不全、骨折などによる搬送の増加が見込まれます。

③ 救急患者の動向

救急搬送される傷病者で急病に分類されるもののうち、診療の結果として帰宅可能な「軽症」が37.4%を占めています。救急車の不要不急な利用は、救急搬送を実施する消防機関に負担をかけるのみならず、救急医療機関にも過重な負担をかけることとなり、ひいては真に救急対応が必要な者への救急医療に支障を来す結果となりかねません。

(2) 救急医療の提供体制

① 医療機関の受診や救急車の要請に迷う場合の相談機能

救急医療機関への適正受診や患者の不安解消を図るため、夜間の急病などについての応急処置や救急搬送の要否等について相談を行う救急電話相談事業を実施しています。

② 病院前救護体制

メディカルコントロール体制を整備するため、香川県メディカルコントロール協議会を設置し、救急救命士が行う救急救命処置について、その質の確保に努めています。

また、救急搬送の迅速化と救急医療の円滑化を図るため、救急隊が患者情報を登録し、医療機関と共有する救急システムを平成24年4月から運用しています。

さらに、救急医療や災害医療の充実・高度化を図るため、香川大学医学部附属病院及び県立中央病院を基地病院として、令和4年4月からドクターヘリを運航して

おり、ドクターヘリの出動中に緊急性の高い搬送案件が発生した場合や、大規模災害発生時などに備えて、令和5年4月からは岡山県と、同年7月からは四国3県との相互応援を行っています。

③ 初期救急医療体制

休日昼間の初期救急患者については、「在宅当番医制」により対応しているほか、夜間については、高松圏域で高松市が夜間急病診療所を設置しています。

④ 二次救急医療体制

二次救急医療は、入院治療を必要とする救急医療を担う医療であり、主に各圏域の「病院群輪番制」により、患者の受入体制を整備しています。

⑤ 三次救急医療体制

三次救急医療は、重症及び複数の診療科領域にわたる重篤な救急患者に対し、24時間体制で高度な救急医療を提供するものであり、県内では、香川大学医学部附属病院、県立中央病院、三豊総合病院の3箇所救命救急センターが設置され、三次救急医療に対応しています。

⑥ 救急告示医療機関

「救急病院等を定める省令」に基づき、消防法に規定する救急隊により搬送される傷病者に関する医療を担当する救急告示医療機関は、令和5年9月時点で57医療機関を認定しています。

【課題】

救急隊の出動件数が増加傾向にあり、今後も高齢化の進展に伴い、救急医療に対するさらなる需要増加が見込まれる中、救急医や内科医等、地域で救急医療を担う人材の確保が厳しく、救急医療に係る設備も限られており、これら医療資源を効率的かつ効果的に活用した初期から三次までの体系的な救急医療体制の構築が必要です。

こうした状況の中、救急搬送先がすぐに決まらない救急搬送困難事案への対応が喫緊の課題となっており、地域の実情に応じた初期救急医療体制の構築が必要です。

また、脳卒中や急性心筋梗塞等の専門的な医療や重症外傷や複数診療科にまたがる重篤な患者への医療提供が、救命救急センターを有する病院以外の病院においても行われていることから、三次救急医療体制のあり方、三次救急医療機関の後方支援としての二次救急医療体制のあり方についても検討し、各医療機関の役割分担を明確にする必要があります。

こうした検討に当たっては、地域医療構想を踏まえた病床の機能分化・連携の推進、在宅医療の推進を含めた地域包括ケアシステム構築の進捗状況、人生の最終段階における医療のあり方の議論の進展など、将来の医療需要や医療供給の大きな変動要因の状況を見極める必要があります。

また、新型コロナウイルス感染症まん延時においては、疑い患者を救急外来内で隔離するため、同時に受入可能な救急患者数が減少したこと、入院が必要な患者に対するスクリーニングによる待機時間の発生等による機能制限や、医療従事者が濃厚接触者となるなどによる人員不足等の複合的な要因により、救急患者の受入れが困難になる事案が全国的に発生し、救急医療における様々な課題が顕在化したところです。

【対策】

(1) 病院前救護体制の強化

- ① 香川県メディカルコントロール協議会の指導のもと、救急救命士の資質の向上を図るため、引き続き、事後検証の実施や病院研修等の充実に努めます。
- ② 救急自動車の適切な利用について、関係機関と連携を図りながら普及啓発に努めます。
- ③ ドクターヘリについては、運航調整委員会や安全管理部会において、運航状況等の分析や安全かつ効果的な運用に向けた検討を行うとともに、関係医療機関や消防機関等と連携した現場訓練等に取り組みます。
- ④ 運用中の救急システムに、効率的な事後検証が行える機能を搭載しており、これを活用し、より一層の救急搬送の迅速化、救急医療の円滑化を図り、病院前救護体制の質の向上に努めます。

(2) 医療機関の役割分担と連携体制の構築

- ① 関係市町や郡市区医師会と連携しながら、在宅当番医制の実施や夜間急病診療所の運営などについて、各圏域の状況を踏まえた対応を協議します。
- ② 救急医療機関が行う救急医療機能の強化のための施設・設備整備や医師確保対策に係る支援を行います。
- ③ 各圏域の救急医療に関する現状分析や情報の共有化を図り、二次救急医療体制のあり方について、各圏域の二次救急医療機関等の意見を踏まえながら、検討を行います。
- ④ 二次救急医療体制の検討に合わせて、県全体の救急医療体制のあり方について、病床の機能分化・連携の推進など、将来の医療需要・医療供給の変動要因も見極めつつ、地元市町や関係機関の意見を聴きながら、検討を行います。
- ⑤ 初期救急医療機関、二次救急医療機関及び三次救急医療機関相互の連携強化を図り、各傷病に対応した適切な救急医療が行われるよう努めます。

(3) 救急医療を担う人材の確保

医学生修学資金制度において、救急科等を推奨診療科とするとともに、県内で救急科等の専門研修プログラムに参加する専攻医に研修奨励金を手厚く支給するなどにより、救急医療を担う人材の確保に努めます。

(4) 救急医療に関する普及啓発

夜間救急電話相談事業の利用促進や、医療機関を受診する際のルールやマナーについて、関係機関と連携しながら普及啓発に努めます。

(5) 新興感染症の発生・まん延時における救急医療提供体制の構築

- ① 医療機関が救急患者を受け入れるために必要な感染対策を講じることができる人材の平時からの育成支援に努めます。
- ② それぞれの状態に応じて、すべての患者が救急外来を受診しなくても済むよう、夜間救急電話相談事業の利用促進やオンライン診療の実施体制の確保等により、新興感染症のまん延によって救急外来の需要が急増した際にも対応できる体制づくりに努めます。

【数値目標】

項目	現状	目標	目標年次
搬送困難事案数	2,524件 (令和4年度)	減少	令和11年度
診療時間外における軽症患者の受診割合	74.6% (令和4年度)	70%	令和11年度

※ 香川県医務国保課調べ。「搬送困難事案」とは、救急隊による「医療機関への受入れ照会回数4回以上」かつ「現場滞在時間30分以上」の事案として、各消防本部から総務省消防庁あて報告のあったものをいう。

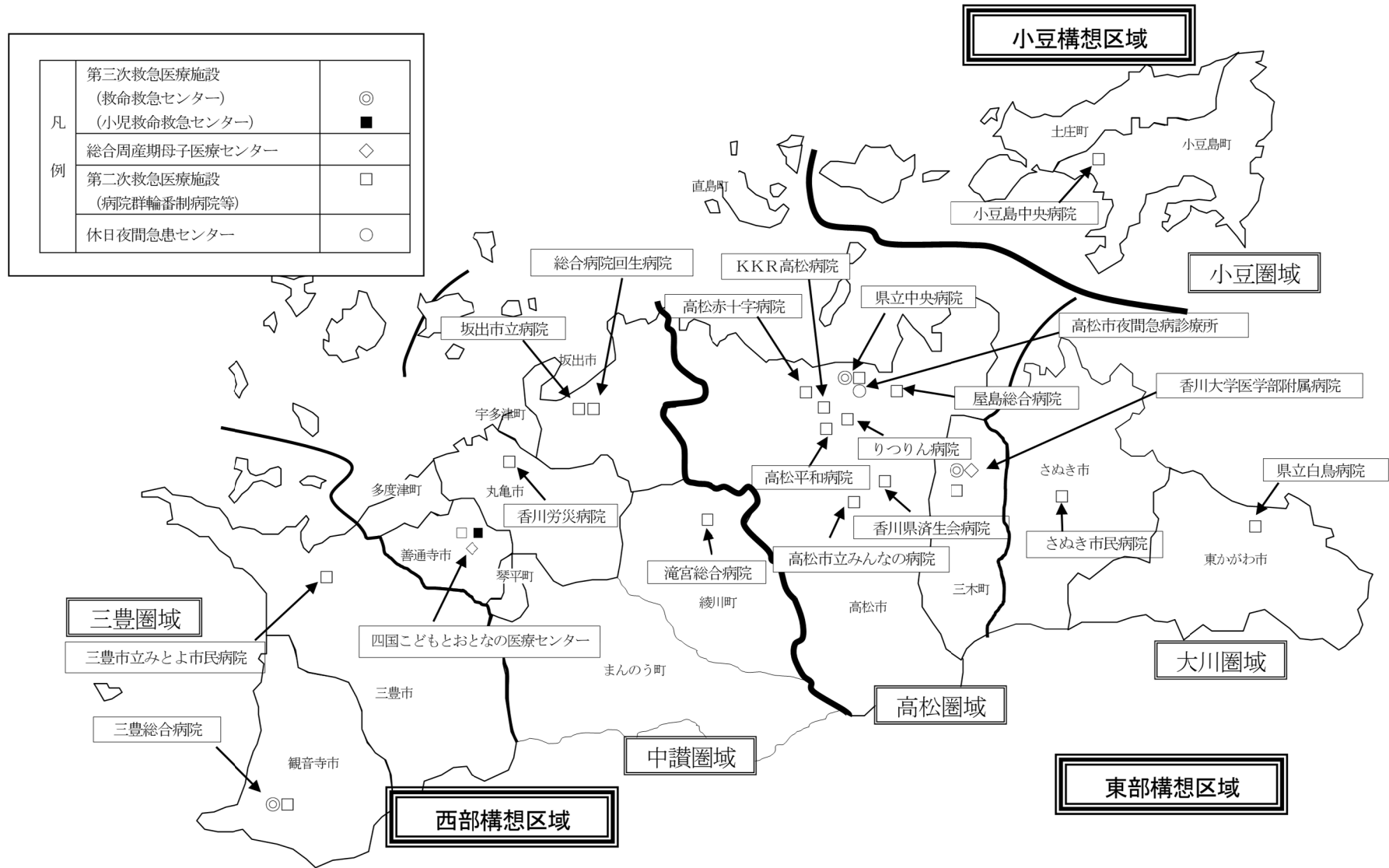
香川県救急医療体制

圏域名	市町名	圏域人口	初期救急医療機関		第二次救急医療機関		第三次救急医療機関	その他
			休日夜間急患センター	在宅当番医制	制度名	施設名		
大川	さぬき市 東かがわ市	72,691		大川地区医師会	病院群輪番制	さぬき市民病院 県立白鳥病院	県立中央病院救命救急センター	香川県広域災害・救急・周産期医療情報システム「医療Netさぬき」を運用。
					共同利用型(小児救急)	さぬき市民病院内		
小豆	小豆島町 土庄町	25,633		小豆郡医師会		小豆島中央病院	香川大学医学部附属病院救命救急センター	57医療機関を「救急病院等を定める省令」に基づく救急告示医療機関として認定。
高松	高松市 三木町 直島町	443,598	高松市夜間急病診療所	高松市医師会 木田地区医師会 (他に、綾歌地区医師会のうち旧国分寺町の施設を含む)	病院群輪番制	県立中央病院 高松市立みんなの病院 高松赤十字病院 香川県済生会病院 屋島総合病院 りつりん病院 KKR高松病院 高松平和病院 香川大学医学部附属病院	三豊総合病院地域救命救急センター 四国こどもとおとなの医療センター(総合周産期母子医療センター・小児救命救急センター)	
中讃	丸亀市 坂出市 善通寺市 宇多津町 綾川町 琴平町 多度津町 まんのう町	275,998		丸亀市医師会 坂出市医師会 綾歌地区医師会 仲多度郡・善通寺市医師会	病院群輪番制	坂出市立病院 香川労災病院 四国こどもとおとなの医療センター 滝宮総合病院 総合病院回生病院		
三豊	観音寺市 三豊市	115,837		三豊・観音寺市医師会	病院群輪番制	三豊総合病院 みとよ市民病院		
					共同利用型(小児救急)	三豊総合病院内		

※令和5年9月1日現在(人口:令和4年10月1日現在)

(注) 共同利用型とは ⇒ 圏域ごとに、病院の一部を開放し、郡市地区医師会等の協力のもと夜間の救急患者の受け入れを行うもの。

救命救急センター、病院群輪番制病院及び夜間急患センター位置図 (R4.5.1)



【ロジックモデル】

